

こぼれ種、こぼし種？

自然に生えてくる野菜

今、となりの畑では、葉物野菜が収穫を待っています。これは種をまいたり、苗を植えたりしたものではなく、春に収穫していた野菜のうち、収穫時期を過ぎて放置しておいたものが、花を咲かせて実(種)をつけ、その実から育ったものです。水菜、小松菜、ターサイなどアブラナ科の野菜は、交雑しやすいので、できる野菜は元の野菜とは少し違った形をしています。おいしいです。

アブラナ科の葉物野菜以外にも、露地の畑ではゴボウ、パースニップ、キクイモ、パセリなど、ハウスでは、食用ほおずき、ミニトマト、青しそが生えてくるようになりました。



春のお花畑。
畑一面、小松菜や白菜などの花で覆われます。

こぼれ種って強い？

こぼれ種の野菜をうまく利用すれば、種まきの手間を少しでも減らせるのではないかと考えて、試行錯誤を続けています。

花が咲いた株からは、本当に沢山の種ができるので、そのままトラクタですき込んだり、できた種を鞘ごと適当に畑にバラまいても、びっしりと芽が出てきます。

小松菜や水菜などは、冬越しをした株が春に黄色い花を咲かせて種を付けます。

落ちた種は春から秋まで、適当な温度と湿度があれば発芽するので、年中畑のどこかに生えています。夏の間は虫食いがひどく収穫できませんが、春と秋にはきれいな野菜が収穫できます。

ゴボウは、種を蒔いてから花が咲いて種ができるまで1年以上かかるので、こぼれ種からできたゴボウを収穫できるのは、最初の種まきから2年後になります。



パースニップの花。
黄色の人参によく似た花です。



パースニップの種子。

[こぼれ種ゴボウができるまで]



5月頃、ゴボウの種を蒔きます



10月頃、そろそろ収穫。
来春まで収穫が続きます。



厳冬期には葉が枯れますが、春にはまた緑の葉が出てきます。



7月頃、花が咲きました。
種まきから1年後。



9月頃、種ができました。



最初の種まきから2年後の秋、
収穫できるようになりました。